



ストリート陸上

CHASKI所属 **梶山 渚**

5月4日に100メートル道路で行われたストリート陸上に出ました。予選は竹尋アスリートの二人と走りました。いつもよりみんなが近くで見えていたので緊張しました。記録は7秒2でした。自己ベストが出てうれしかったです。

決勝は竹尋の江原さんと3メートルハンデで佐藤選手と走りました。スタートしたらだんだん足音が近づいて来てあせりました。ぬかれてしまったけどすごく楽しくていつのまにか笑顔でゴールしていました。ストリート陸上ではパラリンピックの選手と走れたのでとても貴重な体験になりました。

また、みんなの前やテレビのインタビューに答えたりしたので、みんなの前でしゃべることが少なくなるようになったと思います。また、このような機会があったらぜひ、参加したいです。



ストリート陸上に参加して

CHASKI所属 **遊佐 碧依**

3月のかけこキャラバンの決勝に残り、高平選手と走れるチャンスに手に入りました。

ぼくはオリンピックで活やくした選手と走れるのはとても楽しみでした。そして当日、大ぜいの人に囲まれながら予選を走りました。みんなのしせんやカメラのレンズなどがたくさん向いて大会では味わえないきんちょう感でした。

そして決勝、みんなが期待していると思うととてもきんちょうしました。そして、「バン!!!」と同時に出る時きんちょうのあまりつまずきました。そして高平選手に抜かれて2位。負けましたがとてもいい経験ができました。



JAAF U16 (中学生) 指導者講習会を開催

広島陸上競技協会副会長 **東川 安雄**

さる6月3日(土)、日本陸連主催のU16(中学生)指導者講習会が広島大学を会場として開催された。

講師は、日本陸連普及育成委員会の繁田進委員長をはじめ3名。近年、広島県の中学校でも陸上競技を専門的に指導できる指導者が不足できていると言われている。そこで、初めて中学校陸上部等の顧問になった県内の指導者13名の参加を得て、陸上競技の基本的な理論や日常での練習方法を学ぶ講習会を実施した。まず、中学生年代の心身の発達の特徴をふまえた練習内容・方法や指導者の係わり方について学び、続いてハードル、走高跳、砲丸投等の実技が行われた。

実技の内容は、それぞれの種目を指導していく上での基礎基本となるもので、理論的な背景をわかりやすく説明していただき、受講者も実践を通して学んでいた。内容によっては初めて取り組むものもあったが、講師の丁寧な指導の下、果敢に挑戦していた姿や「こうやればできるんだ」という達成感を味わっている姿が印象的であった。

当日の運営を担当した中体連役員からは、「理論や実技が非常にわかりやすく、初めての指導者にとってとても有意義な講習会だった。」という評価をいただいた。今後の指導にぜひ活かして欲しい。



↑走高跳(背面跳)



↑走高跳(背面跳)



↑投てき種目の基本運動



↑円盤投に挑戦

男女駅伝 広島チーム始動!!

男子コーチ(府中緑ヶ丘中教諭) 大瀬戸 積

第23回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会及び第36回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に向けた中学生強化合宿が始まった。本合宿は、特に中学生にとってレベルアップを図れる貴重な合宿である。強い先輩(高校生)と接し、胸を借り、見て学ぶことができ、また、中学生同士では良きライバルとして、ともに切磋琢磨し、高い志で目標に向かって行ける場となっている。これを経験した選手は、夏の全国大会への意識が高まり、毎年数名の出場者を輩出できている要因だと考えている。今年度も、より多くの全国出場者を輩出できるよう、また、1月の男女都道府県駅伝で活躍できる選手の育成を図って行きたい。

【男子駅伝チーム】監督：岩本真典(世羅高) / コーチ：大瀬戸積(府中緑ヶ丘中)、油谷繁(中国電力) / マネージャー：肥田義孝(坂町教育委員会)
【女子駅伝チーム】監督：浜崎正信(市立広島工高) / コーチ：木村雅浩(修大鈴峯高)、池田義和(三原二中)



青少年の夢を応援します!

青少年健全育成
協力企業

- 株式会社サタケ
- 広島駅弁当株式会
- 株式会社広島銀行
- 広島ガス株式会社
- 広島電鉄株式会社
- 学校法人石田学園
- 株式会社中電工
- 株式会社もみじ銀行
- 広島総合警備保障株式会社
- 有限会社ニシロ
- アシックスジャパン株式会社
- 有限会社道後山高原サーブ
- 株式会社もみじ体育社
- 中国電力株式会社
- 大塚製菓株式会社
- 株式会社ツルハグループ
ドラッグ&ファーマシー西日本

(順不同)

NEWS

JAAF HIROSHIMA
陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会
第84号
H29.6.23発行

会長挨拶

三宅勝次

日頃より広島陸上競技協会にご理解とご支援を賜り、心より感謝いたします。この度、会長の役職を拝命しました。今までは陰から支える立場でしたが、アイデアマンの本領を発揮して、行動力でグイグイ、協会を引っ張ります。

当協会の理事、常務理事、副会長、評議員を務めさせていただき、また、高校や大学での勤務を基盤として長く強化委員長を務めさせていただきました。

思い返せば、大学生の時にあった東京オリンピックの補助員としてかかわったその衝撃が、今の私の考えの基本になっています。1991年に日本で初めて行われた世界選手権には広島市の中学生を合宿を兼ねて見学させるなど、今後も「強い選手を育てる」ために、まずは2020年の東京オリンピックに向けて新しいスタッフとともに選手だけでなく、指導者に対しても新しい企画を進めていきたいと思ひます。

また、「元気なちびっ子」、そして、「元気な広島陸協」をスローガンに掲げ、明るく何でも気軽に話し合える明るい陸協を目指して努力していきたいと思ひます。

「オン ユア マークス」、「セット」、「ゴー」

これからも広島陸上競技協会へのご支援をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

●プロフィール

- 1943年 広島市生まれ
- 1962年 広島市立基町高等学校 卒業
- 1966年 日本体育大学体育学部 卒業
- 2001年～ 広島経済大学 教授・名誉教授
- 経歴
- 1965年 岐阜国体三段跳出場
- 1969年 長崎国体三段跳出場 5位入賞
- 1970年 岩手国体三段跳出場
- 公職
- 1992年～ (財)広島県体育協会 理事
- 1985年～ (財)広島陸上競技協会 理事
- 2005年～ (財)広島陸上競技協会 副会長
- 1999年～ 中国陸上競技協会 理事長
- 1999年～ (財)日本陸上競技連盟 理事
- 2009年～ (財)日本陸上競技連盟 副会長
- 2009年 (財)日本オリンピック委員会 評議員
- 2012年～ (公財)広島県体育協会 評議員(議長)
- 2015年 (中国陸上競技協会) 会長
- 2017年 中国陸上競技協会 会長
- 賞罰
- 2005年 文部科学大臣表彰(生涯スポーツ功勞者)
- 2010年 (公財)日本陸上競技連盟功勞章
- 2013年 旭日双光章受章

一般財団法人広島陸上競技協会 役員

| | | | | | |
|------------------|----------------|-----------|----------|------|------|
| 会 長 (代表理事) | 三宅勝次 | 専 門 委 員 長 | 総務委員会 | 委員長 | 後藤俊明 |
| 副 会 長 (業務執行理事) | 東川安雄/芦谷 茂 | | 企画広報委員会 | 委員長 | 藤原文代 |
| 専 務 理 事 (業務執行理事) | 河野裕二 | | 強化委員会 | 委員長 | 松谷清志 |
| 常 務 理 事 (業務執行理事) | 秋山定之/中野 繁/浜崎正信 | | 競技運営委員会 | 委員長 | 田川 司 |
| 理 事 | 大田恒二/金尾誠可/金行哲昭 | | | 副委員長 | 新宅昭二 |
| | 河田慎司/川堀耕史/児玉幸雄 | | 施設用器具委員会 | 委員長 | 元吉揮晃 |
| | 後藤俊明/新宅昭二/高橋和則 | | 指導・普及委員会 | 委員長 | 大田恒二 |
| | 田川 司/俊成茂哲/藤原文代 | | 科学委員会 | 委員長 | 川堀耕史 |
| | 松谷清志/前 義久/松長信也 | | 情報処理委員会 | 委員長 | 秋山定之 |
| | 元吉揮晃/山田貴子/吉田明稔 | | | | |

| | | |
|-------|-------|------|
| 事 務 局 | 事務局長 | 秋山定之 |
| | 事務局次長 | 灰原利彦 |

任期：平成29年6月4日～平成31年定時評議員会開催日

私は何であったか(わが人生)——勝負師となれ

わが一代記(陸上競技)～戦前の記(1928年まで)～織田幹雄のノートからの抜粋



51st M.ODA

第51回
織田幹雄記念国際陸上競技大会
第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)
代表選手選考競技会



第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会は4月29日、晴天の下、広島市安佐南区のエディオンスタジアム広島で開催された。世界選手権(8月・ロンドン)の代表選考を兼ねたグランプリ種目や新設されたパラリンピック種目など男女計37種目を実施。各選手が熱戦を繰り広げ、新たな半世紀を迎えた大会を盛り上げた。

大会の華とも言える男子100mは、右足首の故障で欠場した地元出身の山縣亮太(セイコーホールディングス、修道高出)に代わって桐生祥秀(東洋大)が主役を張った。決勝は向かい風0.3mを切り裂くように加速し、10秒04の好タイムでフィニッシュ。京都・洛南高時代に10秒01を出して一躍脚光を浴びた2013年以来、4年ぶりの優勝を飾った。

もともと、本人に満足感はない。「あれくらいの風なら9秒台を出したかった」「50～60mでもっと加速できたはず」と課題を見据えた。「陸上人生が変わった」と位置付ける思い出のトラックに、久々の存在感と9秒台への期待を刻み込んだ。

織田幹雄氏ゆかりの男子三段跳びでは、今年も好記録が飛び出した。山本凌雅(順大)が1本目でいきなり世界選手権の参加標準記録を超える16m87をマーク。追い風参考ながら16m91まで記録を伸ばし、「跳べる自信はあった」と胸を張っ



た。昨年の大会では長谷川大悟(横浜陸協)がリオデジャネイロ五輪の参加標準記録をクリア。織田氏の名を冠する大会で2年続けて、若きジャンパーが「世界」への扉を開いた。

男子棒高跳びでも、萩田大樹(ミズノ)が世界選手権の参加標準記録となる5m70をクリアして優勝。「70を跳べたのは人生で3度目。80以上を目指す準備はできている」と飛躍を誓った。

地元広島ゆかりの選手たちも、順調なスタートを切った。女子100m障害の木村文子(エディオン)は昨年9月以降のレースで、日本人最高の2位に入賞。ただ、決勝は追い風2.0mの絶好条件だっただけに、13秒21のタイムには悔しさを口にした。久々の「文字スマイル」を振りまきながらも、「海外の速い選手もいて、12秒台が出せる環境だっただけに悔しい」と振り返った。

ただ、再起を目指すシーズンの初戦に「いいレースができた」と手応えも得た。6月4日の布勢スプリント(鳥取)では追い風3.7mの参考記録ながら、12秒99をマーク。着実な進化を印象付け、悲願の日本記録(13秒00)更新への期待を膨らませている。

男子5000mでは鏡坂哲哉(旭化成、広島・世羅高出)が終盤に松枝博輝(富士通)やチャールズ・ディランゴ(JFEスチール)らを振り切り、13分32秒16で日本人最高の2位に食い込んだ。昨年は不振に苦しみ、目標だったリオ五輪代表も逸した27歳。「地元で中途半端に負けられない」という意地が、派手なガッツポーズでのゴールに結びついた。

復活を期す今季は、1万mで2年ぶりに27分台を記録するなど順調な仕上がりに。5月21日のセイコークランプリ川崎では3000mに出場し、7分58秒40の自己ベストもマークした。目標の世界選手権に向け、着実な一歩を刻んでいる。

男子110m障害では高山峻野(ゼンリン、広島工大高出)が実業団選手として初となる地元大会に出場。自身のセカンドベストとなる13秒67で3位に食い込み、「お世話になった先生方が役員を務める大会。良い報告ができる」と喜んだ。

今大会から新設されたパラリンピック種目も、観衆の注目を集めた。男子100m(T47)には北広島町在住の白砂匠庫が出場して2位。やり投げを得意とするホープは「普段の大会とは全く雰囲気違った。気持ち良く走れた」と地元での晴れ舞台を楽しんだ。

1万1千人が見つめるスタジアムで、ジュニアアスリートたちの躍動も目を引いた。中学女子の100mでは、脇坂里桜(府中緑ヶ丘中)が12秒14の広島県中学新で優勝を飾った。木村文子や山縣亮太らも小中学生時代に出場し、五輪選手への夢を膨らませた大会。次の半世紀に向け、新たな芽吹きも感じさせる1日となった。

text by K

第51回 織田幹雄記念国際陸上競技大会を終えて

一つの大会を成功に導くには、多くのサポートが必要になる。自分は最近主にエントリーを担当し、記録確認、記者発表、出場者決定、デーリープロ作成に協力している。いろんな機関と連携を取る必要があり、タイムテーブルは直前でも変更になることも珍しくない。裏方としてしっかり準備したつもりで大丈夫だと思っても大会中は緊張感を持って見守り、無事大会が終わるたびに、関係者への感謝の気持ちが出てくる。

適度(?)な追い風で直線競技へ日本のトップ選手が集い、毎年好記録が出るのを楽しみにしていることを記者発表で話している。最近では高校3年生で出場した時の桐生選手の走り、地元山縣選手のスムーズなスタート加速は印象深いものがある。今も、若手競技者が続々と10秒切りへ名



乗りを上げていて、誰が最初に切るか待ち遠しい気持ちである。3年後に迫った東京オリンピックへ織田大会出場者から選手が出て欲しいと願っている。

中3でリレー出場して以来、関わり続けている大会が今後も末永く続く間、微力ながら支援したいものである。総務員 中野 繁

記念展示 織田幹雄記念国際陸上競技大会にて

青木 義和

この度は、大変貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。ポスターに関わらせていただいたこと。プログラムに掲載させていただいたこと。大勢の方々の中で、織田幹雄さんの一端についてはご紹介させていただいたこと。しかも場所がビッグアーチのコンコースであったこと。何もかも、はじめてのことで、何もかも力不足を感じました。

来年のご依頼も頂き、大変光栄に思っています。織田幹雄さんの生涯は、沢山の思いが言葉に残っています。その言葉から、語っておられます。「●精進●工夫●跳躍人生●出会い●親友●記録」など。ご期待に添えるよう、それぞれ「精進」させて頂こうと思っております。お世話になった皆様にも、出会わせていただいたことを感謝申し上げます。今後ともよろしく指導をお願い致します。本当にありがとうございました。



↑前左から織田陽平(孫)・織田正雄(長男)・織田和雄(次男)・後列青木義和



↑海田東小の子どもたちが作成したリーフレット